

## 『共に語ろう！歯科技工士のこれから Vol.1』

公益社団法人日本歯科技工士会 会長 杉岡 範明

「健康は歯から」と言われるように、以前にも増して、医療の中で「専門的口腔ケア」の重要性が高まっている。特に最後まで自分の口で食べることが、QOLに欠かせない要件でもある。

現在の歯科医療は、歯科医師と歯科衛生士、そして歯科技工士の連携によって行われるが、その歯科技工士の高齢化と若年層の減少傾向が顕在化してきた。このままでは、歯科医療の連携が危ぶまれると言っても過言ではない。

一方、CAD/CAM装置等デジタル技術の歯科技工への応用によって、これまでの手技を中心としてきた業務の効率化の可能性も伺える。このような社会環境の変化に、歯科技工士が医療関係従事者として誇りと責任を抱いて、歯科医療及び口腔保健等の増進にどのように寄与していくか、一人ひとりがしっかりと考えていかなければならない。

歯科技工士のナショナルセンターである日本歯科技工士会も日技新発展『7』プランを事業の柱にして、組織の新たな価値創造を目指している。

今こそ、各々が当事者意識を持って、歯科技工士のこれからの共に語ろう。

## 『共に語ろう！歯科技工士のこれから Vol.2 』

公益社団法人日本歯科技工士会 会長 杉岡 範明

Vol.1 では、歯科医療および口腔保健等の増進に歯科技工士がどのように関わって来たのか、また、今後どのように関わって行くべきかを客観的に検証してきた。

今回の Vol.2 では、国民の健康寿命の延伸について、近年、様々な研究が行われ、歯科医療の果たす重要性が話題になっていることから、今後も歯科技工士は欠かせない存在である。その歯科技工士が熱意をもって業務に従事するためには、相応しい環境整備が必要であり、これは、従事する者の利己的主観では無く、まさに、国民の利益であるとの視点で話を進めたい。

また、この環境整備に道筋をつけることこそが、歯科技工士会組織の存在目的であり、今を生きる私たちの責任でもある。問題解決には常に手段と戦略が必要であり、様々な要素を網羅した中でどう取り組むべきか、具体的な対策を示し、これからも歯科技工士が価値のある職業として生き残るための論理的な議論をしたい。

そして、議論は机上の空論で終わることのないよう、実効性があり、希望が持てる内容で、歯科技工士のこれからの共に語りたい。